

木下ツユ子 ♀
X
木下ツユ子 ♂

登場人物



嶋薫 シマカオル ♂

水泳部マネージャー

身長：163cm

性格：内気、温和

可愛い物好き

趣味：お菓子作り、カラオケ

和泉真琴 イズミマコト ♀

水泳部部長

身長：171cm

B：107cm W：66cm H：89cm

性格：明朗快活、男勝り、リーダー気質

本当は可愛い物好き

趣味：食事、睡眠、運動、ひとりえっち



僕は可愛いものが好きだ。

運動は苦手

友達とケンカしたことは無く
すぐに涙目になったり顔が赤くなったりする。
男らしいところなんてひとつもない。


今はまだそれで何となく許されているけど
多分僕はこのまま社会に出ても通用しない。
そんな漠然とした不安が頭の片隅にいつもある。



自分らしくありたい。だけど環境によっては
男らしくない男は使えない奴とか気持ち悪い奴として扱われるんだ。
「そう扱われたいくなければ男らしくしろ」というプレッシャーから
僕はあと何年逃げ続けられるんだろうか。

鏡の中の自分は頼りなさそうにため息をついていた。


「はあ……そろそろ行こっかな」



今日は水泳部総出でプール清掃をする予定だ。
マネージャーの僕は集合時間より1時間早く来て
鍵を開け、掃除道具を準備してひと足先に作業を始めていた。
少しでも自分が「使えない奴」だと思われないように
ただでさえ体力がなくて愚図な自分にできることはこれぐらいだ。

「鳴！早いな！」

突然、大きな声で呼ばれて僕は
「ひゃい！」と間抜けな返事をした。



「和泉部長：…お、おはようございます」
「どうせ嶋は早く来るだろうと来てみたら、思ったとおりだったな！」
和泉部長は声が大きく、体格もがっしりしていて少し怖い。
思ったことははっきり言うし、うじうじしてない。僕とは正反対の人だ。
「それにしても今日は暑いな…そんな恰好じゃ熱中症になるぞ！」

和泉部長は手に持ったホースで
僕の足元を濡らそうとしてくれたんだろう。
しかし僕の間抜けな体は水をぶっかけられると勘違いして
ビクッと飛び上がってしまい、そのまますっ転んでしまった。



「嶋！大丈夫か!？」

「は、はい…すみません」

「謝るのは私の方だ！…すまない…
急にホースを向けたら驚くよな…」

和泉部長は前かがみになって倒れている僕を覗き込んだ。

「なあ…嶋って女の子みたいだよな」

「それって…」

頼りないってことですか？と訊きたかったけど、そんな度胸は無い。

「…どういう意味ですか？」

「…可愛くていいな…って思ったんだ」

和泉部長の言うことだから多分、嘘偽りは無い。

それでもいつものような勢いのある口調では無かったから
言いづらいことを素直に言ってくれたんだろうと思った。

僕も勇気を出してずっと伝えたかったことを言葉にした。

「和泉部長は僕の憧れです。」



「かっこよくて、堂々として皆から頼りにされて僕には無いものをたくさん持ってます。」

「そうか…ありがとう」

私も君をひと目見たときからずっと憧れていたんだ…

私には無いものをいっぱい持つてる優しくて穏やかで可愛い存在…

私は皆の期待を裏切るのが怖いだけの弱い奴なんだ…

本当は君みたいになりたい…」

「そうだったんですね…知らなかったです」

「お互いにまだまだ知らない事がたくさんあるようだな…
なあ…私たち付き合ってみないか？」

突然、大胆な告白をされて驚いた…やっぱり和泉部長はかっこいい。

「…部長：…なんかいきなりこれって
おかしくないですか？」

「そうなのか？その…順序とかあるのか？」

「いや僕も初めてでよくわからないんですけど
部長が大丈夫なら…大丈夫です」

「そうか：…どうだ？私のおっぱいは？」

「すごくおっきいですね…その…僕の触り方、痛くないですか？」

「ああ…大丈夫だ…むしろ自分で揉む時より力が弱くて、
じらされているみたいだ」

「じゃあ段々強くしていくので…
痛かったら止めてくださいね」



「…部長、痛かったら止めてくださいって言いましたよね？」

「ああ、大丈夫だ。もう少し強く揉んで欲しいくらいだ」

この人は普段どんなパワーで自分の乳を揉みしだいているのだろうか

「あの…すみません、僕の握力…限界です」

「そうか…じゃあ今度は直接揉んでくれないか？」

水着の上からよりは刺激が強いだろう」

「わ…分かりました」

んんん

はっ はっ

んんん



いんちきスリム
誰かに見られたら
大変ですわよ

いんちきスリム
ええは
らめえ

もう
見られてる
かも

いんちきスリム
らめえ

わば...かあいに
らめえ
らめえ

いんちきスリム

部長のえっちな声が
隣のグラウンドの
野球部に届きますよ

いんちきスリム
らめえ

いんちきスリム
らめえ







「和泉部長：満足しました？水着ちゃんと着てください」

「いや…今度は嶋のちんちんが見てみたいんだが」

「だめです…今興奮しておっきくなっちゃってるから

…恥ずかしいです」

「ふふっ…さっきは私が恥ずかしい目にあっただけなら

…お返ししてやる」

「ええ…自作自演じゃないですか…」

「なんだ？自信が無いのか？」

大丈夫だぞ、私だって処女なんだから

生でちんちん見るのなんて初めてだ

何事も経験だぞ」

「うう…分かりましたよ」



びしょ濡れ

おっぱい

おまんこ

おまんこ

おっぱい

おまんこ

おまんこ

おまんこ



じゅぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

おっおっ

部長...♡
キモイにいです
お♡

うれしい♡
いっほい
気持ちよ
なあって♡

ムムム♡
ムムム♡

しゃほ♡

アムムムム♡
ムムムム♡

ムムム♡
ムムム♡
ムムム♡





ズンズン

ズンズン

ズン

ズンズン

出る!

キーン

部長は尿道から
精液の一滴まで残さず
丁寧に吸い出した。
「部長…大丈夫ですか？」
和泉部長は口いっぱい
精液を溜めたまま
満足そうにうなずいた。

ゴブゴブ
ゴブゴブ
ゴブゴブ

ジュジュ

♡

♡



「部長…それ、汚いですから吐き出してください」
和泉部長は口を開けていっぱいの精液を見せつけてきた
「それ…何アピールですか？」
「飲んであげようか…このぴちぴち精液」
「飲まなくていいですお腹壊しますよ？」

はーっ♡

はーっ♡

ふーっ♡

「……意地悪」
「もう知らないですよ…
好きにしてください」



「ちょっと…僕の精液で
うがいしないでください！」



はあ

はあ

はあ

あ

トクン...
はあ

トクン

トクン
はあ

はあ

おまんこ
ちよん
はあ

はあ